

団体紹介

『知覧児童学園』として川辺郡で活動。子ども達のより一層のびのびとした生活環境を整えるために、平成19年に移転。名称も『南さつま子どもの家』と改めました。現在は、5~7名が職員と家族のように暮らす小舎制ホームを4軒、その他、自立支援ホーム、地域子育て支援室「子どもと家族の相談室」等を通して、児童養護施設の子どもの養育のみならず、地域の子育て支援にも力を注いでいます。

支援報告

太陽熱温水器の設置を予定。ガス代の節約になると共に、環境保護にも役立てられます。

『南さつま子どもの家』では今回の移転により、子ども達の生活をより家庭的なものとすることをめざしました。少人数で暮らすことで親密な人間関係が築けるグループホームと、自立支援のための施設を建設。しかし、お風呂が6つ、調理室・台所が合わせて5つとなり、対策を打ってはいなかったものの当初の見込みを上回るガス使用料となってしまうまいりました。施設の運営も圧迫するまでになったこの使用料も、子ども達が健康で育つためには必要不可欠と考えていたところ、今回のご支援で太陽熱温水器の購入が可能になりました。これにより、子ども達も職員も安心して日々の暮らしが出来ると共に、環境保護にも役立てられると胸をなでおろしています。



子ども達が健康に育つ環境が整いました



<http://www.wiss-net.com/meitetukai/new/index.html>

団体紹介

「プレジャーサポート協会」は、障がい者の外出支援（ハートフル・サポート）活動を通して、お年寄りや障がいのある人達が気軽にショッピングや旅行、スポーツなどを楽しめる環境と、ボランティアという特別な意識を抱くことなく、困っている人への手助けが当たり前に行われる環境づくりをめざしています。

支援報告

「ハートフル・サポート講習会」で使用する機材を購入。特別な意識を抱くことなく手助けできる人が増えています。

当会では、外出支援者の養成・教育、啓発に関する活動として「ハートフル・サポート講習会」を実施。毎年約1,000名の方が受講するため、講習会で使用する車椅子や高齢者体験機は劣化が早く、毎年のように買替えなどが必要になります。今回のご支援により、こうした講習機材の安定した買替え、補充が可能になりました。また今年は「アウトドアスポーツチャレンジイベント」の開催費用にも充当。障がいのある皆さんがアウトドアスポーツを満喫できました。

「ハートフル・サポート講習会」とは
 外出支援者の養成・教育、啓発を目的とした講習会。障がい者や高齢者を取り巻く環境の体験やサポート技術の習得を通して、人々が支え合える社会の実現を目指しています。

「アウトドアスポーツチャレンジイベント」とは
 アウトドアスポーツを楽しみたいと思っても、受入施設がほとんどない障がい者を対象に、スキーやパラグライダーなどに挑戦できるイベントを定期的に開催しています。



車椅子や視覚障がいなどを自ら体験し、サポート技術を習得します

<http://www.psa.or.jp/>

団体
紹介

「難民支援協会」は、祖国を追われ日本に逃れてきた難民が、食べたり、寝たり、働いたりする、そんな当たり前の生活を支援する団体です。難民が日本で安心・安全に暮らしていくために、必要な法的手続きの支援に加え、彼らが抱える多くの問題を改善するための政策を提言。また、彼らの存在を広く知ってもらうための広報活動も行っています。

支援
報告

**難民の生活を守るため35人以上の弁護士を獲得。
連携して支援に取り組む体制づくりが整備できました。**

2007年の相談者の国籍は29ヶ国を数え、合計でのべ914人への支援の提供、および5081回の電話相談を受けました。今回のご支援により、専門性を持つスタッフの確保が可能となり、例年行っている難民申請手続きのアドバイスに加えて、弁護士と連携したより専門性の高いアドバイスを提供することができました。難民が話す言語は30以上。多様な言語の通訳確保を実施したほか、新たに35名以上の弁護士を獲得。支援に取り組む体制づくりを整備しました。現在、首都圏のみならず地方でも難民が増えたため、全国で難民支援を行う全国難民支援者ネットワークを立ち上げました。数々のご支援、本当にありがとうございました。



弁護士との
打ち合わせ風景



在留許可を得て喜ぶ難民とスタッフ

<http://www.refugee.or.jp/>

※地図には支援活動を行っている場所が示されています

りよくか

緑化ネットワーク



団体
紹介

「緑化ネットワーク」では、中国内モンゴル自治区での砂漠化防止・砂漠緑化支援と国内の森林整備をすすめています。この2つの活動に共通するのは、地域住民の生活変化によって壊された自然を、元の美しい姿に回復させる取組みであるということ。人と自然、人と人のかかわりを、もう一度考え直すための活動を続けています。

支援
報告

**砂漠化がすすむ荒漠地に5万2,000本の苗木を植栽。
環境の改善に伴い住民の心にも自然を守る意識が芽生えています。**

今回のご支援により、砂漠化がすすむ約40ha（東京ドーム約9個分）の荒漠地の緑化を実施しました。水分蒸発の少ない灌木を中心とした苗木およそ5万2,000本を植栽。現在のところ、その活着率（植物の定着率）は約半数ですが、小さな灌木が中心であることを考えると、これはかなり高い数字だといえます。長年にわたり続けてきた緑化支援により、環境面での変化と同時に、日々緑地の管理を行っている地域住民の意識も大きく変化しています。日本からの支援により、今まで環境悪化は他人事とあきらめていたことが、自分達も苗木を育てることができるという意識の改革が起きはじめています。



人が壊した自然を元に戻すため、地道な緑化作業を続けています

<http://www.green-network.org/>